

<祈りを助けてくださる方>

ローマ8：26～30

「ものの見方」は民族によって違いがある。 *笠信太郎 著『ものの見方について』
日本人の傾向は？

予測される事柄を入念に想定し、対策を練り用意周到に準備する。

度が過ぎると・・・プレッシャーで目の前の事がおろそかに?! 機転に欠ける?!

「全ては主の御手の中にある」の前提があるのとないのとでは大違い。

私たちの人生は、列車に乗って目的地へ向かうようもの。

目の前しか見えず、暗く長いトンネルを不安を抱えて通るような事もある。

一方、神様の視点からは、全体像が見渡せている!

◆どんな道のりを今走っていたとしても、そのすべてが主の手の中にあり、
父なる神の愛が注がれているのは事実。この事実を私たちが知っていることが大切。

1) どうやって知ることが出来るのか・・・?

御霊も同じようにして、弱い私たちが助けてくださいます。 26節

「助けてくださいます」 ①一緒に ②代わりに ③取り上げる 3つの言葉の複合

2) 「弱さ」にはいろんな面があるが、どんな弱さなのだろうか?

肉体的・能力的・心の弱さ・・・?

◆一方的に自分の願いや思いを「祈り」として神に告げることはするけれど、
父なる神の愛に根ざした「信頼」の関係を神との間に築けない。どう祈った
らよいかわからない、祈ることができない、根本的な弱さ。

目に見える現実の社会に飲み込まれ、神への信頼を損ない見失っていく。

主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。 エレミヤ17：7

3) どのように助けてくれるのか?

弱さがある私たちの内に神は、聖霊を助け主としてお与えになった。この方が
私たちの代わりにうめきをもって、主への信頼が深まるように助けてくれる。

助けられて祈れるようになる者は、弱さの中でも、押しつぶされずに歩める。

「とりなし」・・・二人の人の間に立って仲を取り持つこと。

父なる神 と 私たち

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。 28節

働かせて・・・「相乗効果」を意味する synergy（シナジー）の語源が使われている。

◆負の要素と思えることが、神のご計画の中で相乗効果を発揮して、すべてが役に立つ。マイナスだと思っていたことが、プラス、益となる。

神がすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。

「知っています。」このように確信を持って言えるのは、

神の子としての立場を頂いた。ここにしっかりと立っているかどうかによる。

あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、

子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。 15節

祈り願ったことが叶ったか、否かで神の愛を量るような私たち。

聖霊は常に、「神の愛が注がれる子としての立場」に立てるように助けてくれる！

「弱さ」を繰り返す私たちを、とりなしてくださる聖霊の助けの中で、私たちは少しずつキリストの似姿へと変えられ、キリストの栄光を映す者となっていく。

神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認められた人々にはさらに栄光をお与えになりました。 30節